

平成 25 年度 第 2 回理事会開催

12月3日(火)に平成25年度第2回理事会を開催しました。

内容・結果につきましては、別紙「平成25年度第2回理事会の結果について」をご参照ください。

専門部会の動き (11月分)

【東北農業復興プラン検討部会】

南相馬市におけるタマネギの試験栽培(秋まき)・試験販売についてと、来年1月下旬の栃木県内タマネギ生産者の視察研修について報告を行いました。

試験栽培・試験販売については、現地で春まきタマネギに取り組んだ2つの生産者が9月に秋まきタマネギを播種し、育苗していると報告がなされました。

タマネギ生産者の視察研修については、現地の土地改良を行なう地区から要望が寄せられ、市内の生産者のタマネギへの関心は確実に高まってきていることを報告しました。

次回は、1月まで動きがないため、休会することとしました。

【事業化支援・販売支援③】

国産りんごのブランド化の相談について前回課題とされた「顧客セグメントと選定」と「ネーミングの変更」について検討を行いました。

りんごが美容・健康に良い、女性のほうが果物を食べる習慣があるなどの理由から、想定ターゲット層を20代後半～40代の女性に設定し、この顧客層に向けたネーミングやロゴについて、商品の特徴や製法を生かし、温かみとポップなイメージに変更することとしました。今後は、直売会の開催や、ECサイト、SNS、キャラクターでのブランド推進を展開予定です。

次回は、新たに北海道産牛肉のブランド化について検討を行います。

【人材育成①】

前回に引き続き、人材育成②と合同開催し、J-PAO独自の課題解決型の研修プログラムについて検討を行いました。

今回の議題は、想定されるプログラムの内容・事業の成果(受講生の目指す姿)、受講する農業者にどうなって欲しいか、対象とする農業者について検討・意見交換を行いました。様々な意見が出され、J-PAO会員のネットワークも活用しながら、今後も検討を進めることとしました。

【人材育成②】

サポート人材育成研修の実施報告、トップマネジメントセミナー開催について検討を行いました。

研修受講生アンケートによると、特に経営改革プラン作成のグループワークが高評価でした。受講生自身、これまで部分的な関わりが中心で、農業経営全体への関わりが少ないなどの問題を抱えていたため、研修によって計画作成のポイントなどを習得できたことが高評価につながったようです。今後も電話会議などで受講生へのフォローを行います。

セミナーについては、開催内容もほぼ固まり、近日中にご案内する予定です。

主な活動 (11/15～12/16)

- 11/15 大分県農業ビジネススクール
(入来院会員、JWF 牧氏)
- 11/19 日本政策金融公庫名古屋支店交流会
(伊藤元重特別会員)
- 11/20 日本政策金融公庫水戸支店交流会(後藤)
- 11/22 日本政策金融公庫仙台支店融資先交流会
(オイシックス(株)阪下氏)
- 11/25 日本政策金融公庫新潟支店融資先交流会
(食料マネジメントサポート福田氏)
- 11/25～26 技術習得支援事業 集合研修 2回目
- 12/3 平成25年度第2回理事会
- 12/5 第3回農業経営上級アドバイザー試験 二次選考
- 12/10 とちぎ農業ビジネススクール(農業経営支援センター)
- 12/11 第76回企画運営委員会

往復書簡

今回からは、安達氏（山形県 旬安達農園）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹 様

寒暖の差が激しい日が続きますがお体には変わりはありませんか？

私は今、山形を離れて群馬で野菜作りの研修を行っています。なぜかと言いますと、小さい頃から「お前は果樹園の三代目なんだぞ、将来はこの果樹園を背負っていく存在になるんだぞ。」と言われ続けてきました。正直そのプレッシャーに負けそうになったことも何度かありましたが、山形を離れて外から安達農園を見てみたい、果樹と野菜の違いを見てみたいと群馬県の「あずま産直ねっと」の門を叩きました。

事実、高校と大学は農業関係に通い就農し一八年がすぎました。現状は、「果樹、野菜と関係なく自分は農業が面白くてしょうがない」が一番の感想です。あずま産直ねっとにお世話になって半年ですが、生産している野菜の成長や変化が見えてくる部分と、果樹とは違い収穫までの日数が短いなかでどう管理していくのが、毎日がわくわくしています。「野菜を作るのも悪くない」そんな考えも出てきています。

しかしながら、面白いだけでは農業はできないのも実情です。果樹とは違い長いスパンで管理していく作目ではないこと、今までに経験したことのない異常気象による作物の成長変化と課題があります。

外から安達農園をみて雇用されている年齢がぐっと若いことに驚きました。いろんな県から集まっているあずま産

直ねっとですが、これだけ若い人たちが農業に従事していて、数年で生産の主導ができるまで育てられる松村さんはずごい。人材育成が課題ではありましたが、ここまで違うものとギャップを感じ改心しました。生産を主導している人からすれば自分の山形でのプレッシャーは大したことではないと実感しました。当然の事ではありますが、安全で安心な農業をそして消費される方が笑顔になる農作物を努力をお願いしますに作りたいと思います。

平成二十五年十一月吉日

敬具

安達 勝夫 （あだち かつお）

一九七〇年 山形県東根市生まれ
一九九四年 日本大学農獣医学部農学科卒
一九九四年 旬安達農園 就職・就農



拜復 安達 勝夫様

先月十一日東京では木枯らし一番が吹きました。いよいよ師走、何かと気忙しい日が続きますね。お互い体調管理には万全を期しましょう。

どんな世界でもあとをとる、あとを継ぐというのは大変なことです。貴兄のように有名な安達農園の御曹子ということになれば尚更のことと思います。

でも考えてみて下さい。子供は親を選べません。親との絆はこの世に出てはじめてのもので、これを活かさない手はないと思います。

親を頼りに出来ずひとり切りひらいて行かなければならないのが当たり前の世の中で、考えようによっては、初めから立派な経営をしている農園で働けるなんて、極めてラッキー、こんなに恵まれたスタートを切れるのは天運の賜もの。しかも貴兄は農業が好きでしょうがない、農的人間なので、すから。

でもそれは他人の見方。貴兄にとってはプレッシャー以外の何ものでもない。そこで果樹以外の分野で一流の他人の飯を食ってみようと思われたのは素晴らしい。一流のところ、働くことは、自分を見つめ直す、ものさしを豊かにし、感性を磨くのに絶対必要なことだからです。

貴兄は六カ月で既に野菜農業の本質を見抜いただけでなく、人材育成の大切さとそれを実践している松村さんの一流のすごさを感じとり、そして自分を「改心」する柔軟さを持つておられる。

私は貴兄もすごい豊かな感性の持主と確信しました。

努力は必ず報われますが、それをより確実にするのは感性（想像力、創造力、直観力、先見性、判断・決断力、責任感などの総合力）の力というのが私のこれまでの人生から得た、信念に近い「生かされている命の使い方」のものさしです。

貴兄からの次のお手紙が待ち遠しく、楽しみです。向寒の砌、ご自愛專一でお願いいたします。

平成二十五年十二月吉日

敬具

高木 勇樹 (たかぎ ゆうき)

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 榊農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

